

アニメで知る心の世界 10月

こもれび心の診療所 羅田 享

今月扱うアニメ作品：君の名は。

あらすじ

千年ぶりとなる彗星の来訪を1ヶ月後に控えた日本。山深い田舎町に暮らす女子高生・三葉は鬱屈とした日々を過ごしていた。そんなある日、自分が男の子になる夢をみる。見覚えのない部屋、見知らぬ友人、目の前に広がる東京の街並み。自分が憧れていた都会での生活に戸惑いながらも満喫していた。

一方で東京で暮らす男子高校生・瀧も奇妙な夢を見た。行ったことのない山奥の町で自分が女子高生になっているのであった。繰り返される不思議な夢、明らかに抜け落ちている記憶と時間。その中で二人がお互いに入れ替わっていることに気づく。幾度も入れ替わる身体とその生活に戸惑いながら、現状を受け入れる三葉と瀧。お互いにメモを残しながら交流し、時に喧嘩し、時に相手の人生を楽しみながら状況を乗り切っていく。しかし気持ちが打ち解けてきた矢先、突然入れ替わりが途絶えてしまう。自分たちが特別につながっていたことに気が付いた瀧は三葉に会いにいこうとする。たどり着いた先は意外な真実が

待ち受けていた。

男女の体が入れ替わるというファンタジーを通じて思春期の葛藤や心の揺れ動きをコミカルにそして深く描いた作品

今月のテーマ

1. 彗星が接近し、混沌は始まる。
2. 君を探すことは自分を探すこと
3. なぜ、住民を避難するためにあそこまで無謀な行動にでたのか？

1. 彗星が接近し、混沌は始まる。

彗星：不吉な象徴

ティアマト：メソポタミア神話に出てくる女神。原初の創造における混沌の象徴

三葉と瀧が入れ替わる意味は

宮水三葉：2013年の時点で高校2年生。思春期の真っ只中にいる。

三葉：ミズハノメ（水の神）から着想

一般的に、私たちは過去から現在まで記憶が途切れなく続き、自分の存在を繋がったひとまとまりの存在として考える。

しかし彼女は思春期の情緒的葛藤をうまく対処できず、別な存在（立花瀧）が出て、記憶が分断されている。

→解離の状態になったと考える。

a)解離とは？

意識、記憶、思考、感情、知覚、行動、身体のイメージなどが分断されて体験される現象。【平島奈津子】

ではなぜ？解離が起きるのか？

b)妄想分裂ポジションと抑うつポジション【メラニー・クライン】

①妄想分裂ポジション

乳児期の母子関係（口唇期）：乳児は母が不在のときは「乳房がない」ではなく、「悪い乳房」として体験する（乳房を「良い乳房」と捉える）。乳児は母に

ある一部を「悪い乳房」と捉え、被害感、迫害感を抱き、攻撃する。→この心性を妄想分裂ポジションという

②抑うつポジション

母に乳児が抱えられる中で「良い乳房」も「悪い乳房」も同一な「乳房」であることを知る。

→「乳房」（母親）が傷ついてしまったのではないか？：自責感や罪責感という抑うつ的な心の痛み

→この痛みが「良い乳房」はもはやないという孤独感、喪失感をもたらす

→償いや修復の試み cf「思いやりの能力」【D.ウィニコット】

→この心性を抑うつポジションという。この心性のなかで現実を受け入れ、連続性が形成される（そのために歴史的ポジション historical position 【オグデン】ともいわれる）。

この妄想分裂ポジションと抑うつポジションは喪失と再生の過程でもあり、人生のうちに何度も繰り返される心性である。

→思春期は色々な情緒的な混乱が生じるためにこの心性が強烈に再演される。

c)宮水三葉の心について考える

宮水三葉：通常の高校生である一方で、村のアイデンティティでもある宮水神社の巫女を務める。

巫女：神を祀り、神に仕え、神意を世俗の人々に伝える役割

cf 口嚙み酒（口神酒）

→村の人々と神との間をとりもつ存在：村のアイデンティティの象徴

→巫女は村の共同幻想と融合している【吉本隆明】

しかし現代社会では形骸化しつつある。

思春期の到来と共に三葉の自我の芽生えがあり、巫女をすることに反発を感じ

る。：「今すぐ私を 東京のイケメン男子にしてください」

→しかし都会の男は自分を見捨てた父の存在でもあり、そこにも反発。

→そして葛藤を受け止めてくれる存在もない

そのなかで三葉自身の心の混乱が制御できず、妄想分裂ポジションから抑うつ

ポジションへの移行ができず、妄想分裂ポジションに留まり、解離が生じた

考える。それ故現実感がなく、なにか夢の中のような感じになる。

この状況が続くこと、それはアイデンティティの喪失であり、自我の消滅。

→隕石の衝突に伴う糸守町の消滅が象徴的出来事になっている。

一方で三葉は解離した対象である瀧と対話し、どうして入れ替わるのか考え、
対処しようとしている。

2. 君を探すことは自分を探すこと

a)黄昏時について考える：夕暮れ時の人の顔の識別がつかなくなる暗さ

黄昏：誰そ彼れ→彼は誰れ（かはたれ）→かたわれ

本作品では黄昏の方言として「かたわれ」という言葉が使われる。

かたわれ（片割れ）：ひとつのものから分かれたもの

→分離の意味でもある

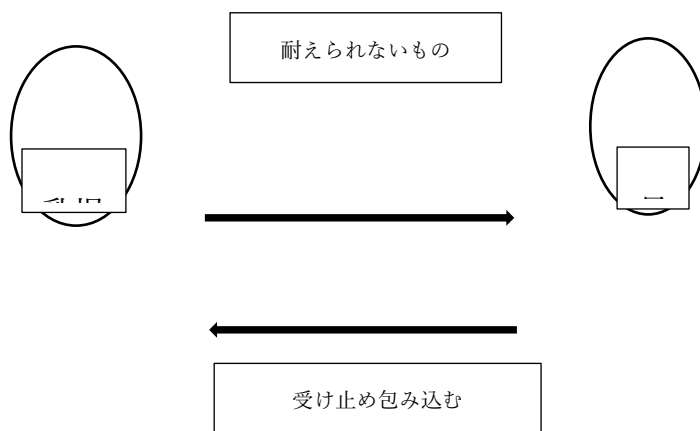
b)改めて生後からの母子関係モデルについて考える

「ひとりの赤ん坊は存在しない、赤ん坊と母親の対のみが存在する」

【D・ウィニコット】

母と乳児のやりとり（妄想分裂ポジション）はどのようなになっているのか？

良い対象が形成される過程



抑うつポジションへの移行：分離を受け入れること

しかし他者（抱えてくれる存在）なしには分離はできない

→分離するには自分を抱える（葛藤を受け止めてくれる）誰かが必要

（汝思う故に我あり）

→だからこそ立花瀧が救いにいく必要があった。

c) アニメで考えていく

三葉と瀧の入れ替わりがなくなった後、瀧は必死に糸守町のイラストを必死に描き、三葉が住んでいるであろう飛騨に向かう。そこで三葉の住む糸守町は彗星の一部が割れて、隕石となり、落下により消滅し、その時に彼女も亡くなったことを知る。

そして宮水の御神体が祀られている「彼の地」に行く→ある種、黄泉の国に行く。

黄泉：夜見、「夢」がなまったもの etc

(イザナギが亡くなったイザナミを生き返らせようと黄泉の国に行く)

cf：眠れる森の美女の王子

「ここから先はあの世」と言って川を渡り、「アイツの半分」である口神酒を飲む。その後足を滑らせ、倒れたのちに幻影（夢）をみる。

隕石の落下当日のときの三葉に入れ替わり、皆を避難させようと行動し、その後「彼の地」に行き三葉に出会う

→主体性を持って動き出す準備をし、その後を三葉自身に託す。

カタワレ時が終わると二人は元にした世界に引き離される

→宮水三葉と立花瀧が分離し、独立した個となっていく。

→分離・独立の始まり→抑うつポジションへの移行（喪失感伴う）

→夢から醒めていく

3. なぜ、住民を避難するためにあそこまで無謀な行動にでたのか？

a)再び思春期心性について考える。

思春期に関して

二次性徴に前後して自分自身の心身に大変動が生じる。

潜伏期に一旦は収まっていたエディプス葛藤が再び起き、自身のこれまでのア

イデンティティが揺らぎ、今までの社会的、家庭的秩序を揺さぶっていく。

その中で誰もが喪失的感情を抱く（だからこそ第二の分離个体化）。

→その過程を Adolescence Process（青年期に至る過程）と言う

→安定した世界観が破壊され、新たな創造をもたらす

b)宮水三葉と勅使河原克彦

宮水三葉：家系の神社、父が町長であること、そういう中で常に折目正しく生

きることを周囲から求められる。父に反発を感じながらもその感情を押し込めている。

勅使河原克彦（てっしー）：地元の建設会社の社長の息子。高校卒業も地元の残るだろうとなんとなく考えている一方で反発も感じていた。

父と社員達と町長との飲み会をみて「腐敗の匂いがする」

→両者とも将来を決められ、逃げ場がなく、自由がなく、何か諦めのように強い（敵わない）父親に従わざるを得ない状況になっている

→エディプスコンプレックスに押しつぶされそうになっている。

→生氣のない言動。一方でこの状況を変えたい（壊したい）思いもある。

c)破壊するということ

三葉とてっしーはエディプスコンプレックスに押し潰されそうになっている。

主体性を形成し、生き抜くには、自身が社会の構成員として、自分の存在を主張し、大人達に認めさせる

隕石の落下：隕石に町が押し潰され、町が消滅してしまう

→町を救うことと自身を救うことが重なっている。

変電所を爆破し、電波ジャックすることは町民を助けようとする思いであると

同時に押し潰されそうな自分たちの存在証明

d)成長すること、自分が変わり、社会を変え、自分の場所を作る過程

計画通り停電させ、電波ジャックし、避難指示を出す、町役場にバレてしま

い、避難指示を出すと思うように進まない。再び父である町長に掛け合うが、

道中で三葉は転倒してしまう。瀧の名前を思い出すために手のひらを見るが

「すきだ」と書かれている。

→自分が必要とされている存在であること知る

その中で町役場に行き、今まで反発をしていた、敵わない父と対峙する。

→（彗星の景色とともに）それは夢の景色のように美しい眺めであった。

→対峙したからこそ、父の心を動かし、町の人々を救ったのではないか？

→神意（瀧の言葉）を聞き、町の人々に伝える巫女の役割を果たしたとも言える。

cf 父は元宮司（宮司：巫女の告げる神託まとめ統治する役目）